

小学五年

国語

解答と解説

2

問一	A
ア	33
B	
エ	34

1

問一	A
イ	21
B	
ウ	22
問二	イ
イ	23
問三	エ
エ	24
問四	ウ
ウ	25

問三	市場
問四	ウ
問五	エ
問六	イ

問二	A
条件	
の	
合	
う	(答) 35
B	
商談	
成立	
の	

問十	気が
つく	31
と	
問十一	エ
エ	32

問六	エ
問七	ア
問八	イ
問九	ウ

問五	A
仲良	
く	(答) 26
B	
今	
後	
の	
誕生	

(配点)

①〔問一〕各2点、〔問三・四〕4点、〔問五〕6点、他各5点
 ②〔問一〕各2点、〔問二〕6点、〔問七〕7点、他各5点
 ③④⑤各2点

} 計150点

		5		4		3									
⑥	①	①	①	①	問九	問八	問七								
課	季節	ウ	イ	イ	エ	1	し	に	金						
⑦	②	②	②	②	問十	2	や	溶	・						
63	58	53	48	46	ウ	44	す	か	銀						
察	栄養	ア	イ	イ	47	2	い	す	・						
⑧	③	③	③	③	ア	45	形	こ	銅						
64	59	54	49	50	④	45	に	と	は						
拳	害虫	④	④	④	イ	51	加	が	当						
⑨	④	⑤	⑤	⑤	ア	52	エ	で	時						
65	60	56	51	57	ア	52	で	き	の						
支	水圧	⑤	⑤	⑤	⑥	⑥	き	、	技						
⑩	⑤	⑥	⑥	⑥	⑦	⑦	た	持	術						
66	61	62	61	62	⑦	⑦	か	ち	で						
飼	習慣	⑦	⑦	⑦	⑧	⑧	ら	運	も						
67	62	67	62	67	⑧	⑧	ら	び	簡						
飼	⑧	⑧	⑧	⑧	⑨	⑨	。	の	単						
67	62	67	62	67	⑨	⑨	の	の	単						

40
41
42
43

【解説】

1 森絵都「永遠の出口」(集英社) から出題しました。主人

公の「私」はその場の雰囲気(ぶんいき)に流され、深く考えずに好恵(よしえ)を誕生会(たんじんかい)から閉めだすことに同意してしまい、そのうしろめたさにさいなまれていきます。表情(へいじょう)やしぐさ、行動(こうどう)から「私」や好恵(よしえ)の気持ちを丁寧(ていねい)に読み取りましょう。

問一

A2 知識 関係づけ

前後(ぜんご)の文脈(ぶんまっ)から空欄(くわんらん)にあてはまる擬態語(ぎたいご)を考えます。

① 三文前に「人の視線(しせん)とはこんなにも怖いものか」とあることから、「びくびく」が入ります。

② 姉は「ノックもせずに現れた」とあり、つつけんどんな物言(ものごと)いをしていいることから、ここには「ずかずか」が入ります。

問二

B1 具体化 比較

好恵(よしえ)の「意外(いっがい)な側面(そくめん)」は「男子(なんし)たちの好恵熱(こうゑねつ)をより一層(いっそう)煽(あお)りたて、好恵(よしえ)を嫌(きら)っていた女子(よめ)たちの態度(たいど)をも軟化(なんか)させ」るもので、皆(みな)が好恵(よしえ)に「同情的(どうじょうてき)」になり、好恵(よしえ)を「不憫(ふびん)」だと思(おも)うような一面(いっぺん)です。それは「意地悪(いぢあく)なお母(お)さんに誕生会(たんじんかい)をしてもらえない」、「涙(なみだ)を浮か(うか)べて耐(た)えていた」という一面(いっぺん)です。その内容(りゆう)が示(し)されているのはイです。ア「元氣(げんき)さを発揮(はつぎ)できない」、ウ「浮(う)いた存在(そんざい)で、嫌(きら)われている」、エ「誕生会(たんじんかい)で…友達(ともだち)を追い返(かえ)した」はその内容(りゆう)とあっています。

問三

A2 知識 関係づけ

直前(ちかぜ)に「好恵(よしえ)を受け入(うけい)れるしかなかった」とあることから、

「誕生会(たんじんかい)のことは」なかつたかのようにする必要(ひつよう)があります。ここには、いざこざやもめごとなどをなかつたことにするという意味(いみ)の「水(みづ)に流(なが)す」の「水(みづ)」が入(い)ります。ですから同じ「水(みづ)」という字(じ)を使う慣用句(かんようく)、エの「水(みづ)を差(さ)す(じやまをする)」が答え(こたえ)です。アの「火(か)を見るより明らか(めいらか)か」は極めて明らか(めいらか)で疑(うたが)いを入れる余地(よぢ)がないこと、イの「土(つち)がつく」は勝負(しょうぶ)で負(ま)けること、ウ「目(め)を見る」はそれまで埋(う)もれていたものが、世(よ)に知られるようになることです。

問四

A1 知識

「レッテルを貼(は)る」とは、ある人物(じんぶつ)に対して、一方的(いつぱく)に評価(ひやうか)をつけることです。どちらかといえばマイナス(マイナス)の評価(ひやうか)を断定的(だんてき)につける時に使(つか)います。ですから、答え(こたえ)はウの「烙印(らくいん)を押(お)す」です。アの「お墨(すみ)付き(つき)を与(あた)える」は権力(けんりく)のある人(ひと)が保証(ほしょう)することです。

問五

B1 具体化

——線(せん)④の直後(ちかご)に「私(わたし)たちは好恵(よしえ)を許(ゆる)さなかつた。そこで、ひそやかな復讐(ふくせう)を企(くわだ)めた」とあるので、春子(はるこ)が提案(ていあん)した、「復讐(ふくせう)」についてくわしく書(か)かれた部分(ぶぶん)を探(たづ)ねます。春子(はるこ)のセリフの「もう私(わたし)たちのお誕生会(たんじんかい)には呼(よ)ばない」と同意(どうい)の十二字(じふにじ)の表現(ひょうげん)を本文(ほんぶん)から探(たづ)ねましょう。

問六

B1 理由 比較

「好恵(よしえ)を今後(こんご)の誕生会(たんじんかい)から閉(し)めだす」ことにしてから、「私(わたし)」は、「毎日(まいにち)が緊張(きんちやう)の連続(れんぞく)」。七月(しちがつ)八日(やっぴつ)が近(ちか)づくほどにその緊張(きんちやう)は高(たか)まっていった」とあります。そして、その誕生会(たんじんかい)が

終わって「脱力した」という流れです。なぜそんなに緊張を
 いられていたかという点、「好恵に最初に手を下すいやな役
 まり」がよりによって自分であったからです。そのため、
 好恵に悪いことをしているといううしろめたさから「好恵の
 視線ばかりを気にして」びくびくしていたのです。そのこと
 が説明できているのはエです。「段取りさえ…まず失敗はない」
 パーティなので、ア「皆が…楽しく過ごせるようずっと気を
 配っていた」は不適切です。また、イ「好恵が訪ねてくるか
 もしれないとどきどきし通し」、ウ「好恵が何かたくらんでい
 るのではないか」と同意の表現は本文にはないので、これら
 も不適切といえます。

問七 **B1** 具体化 比較

——線⑤の前で「なのに好恵はそれすらもしてもらえな
 かった」、——線⑥の前で「一生に一度しかない…好恵はあ
 の日、どんな思いで…そして今日はどこで何を思い、過ごし
 ていたんだろう」と好恵のことを考えています。その上で「私」
 が「苦し」んでいることから、「私」は、好恵へのうしろめ
 たさでいっぱいになっていることが分かります。ここから、
 答えはアです。イ「恨みがましい好恵の視線」、ウ「好恵を
 うとましく思う気持ち」は本文には示されていません。エの
 「深く反省する気持ち」も不適切です。——線⑥の直後に「つ
 いてない、と心底思った」とあることから、自分たちのし
 たことを、「復讐など同意しなければよかった、次からはし
 ないようにしよう」とか「好恵に謝罪しなければならぬ」
 など「反省」しているわけではないのです。

問八 **B1** 理由 比較

——線⑦の直後に「私は好恵と会うのが気まずいだけでな
 く、あの日、あんなにもはつきりと私たちを拒んだおばさん
 に会うことも恐れていたからだ。」とありますから、この二
 点にふれられているイが正解です。エは「好恵と会うのが気
 まずい」に触れられておらず、ア「母親に…責められる」、
 ウ「好恵にわだかまりがないのか」の部分が本文からは読み
 取れず不適切です。

問九 **B1** 理由 比較

——線⑧の直後に「好恵の声には『なんか用?』とでもい
 うような、白々とした響きがあったからだ。」とあるように、
 「私」は好恵の態度から、何も知らないようにふるまうひや
 やかさを感じとって、どう話を切りだしていいか戸惑ってい
 ることが分かります。ここから、答えはウです。ア「仕返し
 してやりたいという強いうらみが感じとれた」とありますが、
 「白々とした」という表現と「強いうらみ」があわず不適切
 です。イ「伝える言葉は用意していた」、エ「好恵がプレゼ
 ントのことを何も知らないようなので」の部分が不適切です。

問十 **B1** 具体化

「私」が何かに突き動かされているかのように、無我夢中
 になって行動しているのは、好恵の家に自転車に向かってい
 るときです。

問十一 **B1** 具体化 比較

問十にもあるように、「私」は好恵に会わなければ、と無

我夢中で好恵の家に行っています。仲間内の誕生会からしめだしたことをうしろめたく思っていたときに、好恵がプレゼントを渡すためだけに家まで来た事実を知り、うしろめたさに耐えきれなくなったのでしょうか。自分が好恵にした仕打ちを深く反省し、謝罪したいという気持ちは本文に示されていないことから、好恵を深く思いやつの行動とか、心からの反省を示し好恵に許しをこおうとした行動ではなく、自分のうしろめたさ、もやもやをなんとか解消したい、そのためには好恵との今の関係を少しでも変えたいという思いなのだと思取れます。このことから、エが答えと分かります。ア「子どもっぽい自分もどかしくなる」、イ「仲良くはなれないとうんざりする」、ウ「深く関係を築くことができる」などの気持ちは読み取れません。

2 池上彰「知らないと損する池上彰のお金の学校」(朝日新聞出版)から出題しました。中学入試でよく見られる、池上彰

氏の文章は、語りかけるような文体で、具体例を多く出し、少し難しい言葉も直後で分かりやすい言葉に言い換えながら、論を進めていきます。具体例の部分とそのままめ、言い換えの表現などに注目しながら読み進めましょう。

問一 **A2** 知識 関係づけ

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょう。**A**の前で「商談そのものがなかなか成立しません」とあり、後で「魚を持っていく人が肉を食べたいという時は…」と「商談そのものがなかなか成立しにくいこと」を具体的に説明していますから、ここには具体例を出す時に

使う「たとえば」が入ります。**B**の前ではお金が「とても便利なもの」といい、後で「…どれだけたくさん持っても仕方がありません」とあるように、**B**の前後でプラスのこととマイナスのことが書かれていますから、ここには逆接の「でも」が入ります。

問二 **B1** 具体化 関係づけ

物々交換が「効率が悪い」ことについて、——線①の直後から説明されています。効率が悪いというのは、「商談成立の可能性が低い」ことを指しています。なぜそうなるかといえば、「魚を持っている人が肉を食べたいという時」に「肉を持つていしかも魚を食べたいと考えている人と出会」うということはほとんどないからです。この部分を言い換えている部分は次の段落で、「条件の合う人同士が『出会う』』と言い換えています。

問三 **B1** 関係づけ

②は「条件の合う人同士が『出会う』可能性を高めるために、始まった」ものです。直後に言い換えの意味の「つまり」があります。「この市場ができたことにより、取引が成立する確率は飛躍的に上がることに…」とありますから、**②**には「市場」が入ります。

問四 **B1** 具体化 比較

——線③の直前に言い換えの意味の「つまり」があることから、「つまり」の前に「交換用品として優れている」点が列挙されているはず。そこには「布は、切ったり…さま

さまざまな物に換えることができる」とありますから答えはウです。ア「誰にでも手に入りやすく」、イ「稲よりも用途が多いので」などの部分が不適切です。エの「腐ったりせず」などは文中で触れられていません。

問五 **B1** 置換

——線④の一文に「これが：スタイル」とあるので、指示語の指す内容をとらえれば、「スタイル」の意味がわかります。直前の内容を読むと、「自分の持ち物を：市場の中を聞いて回る」という、市場で自分の欲しいものを手に入れる際の方・方・方が書かれていることがわかります。

問六 **B1** 理由 比較

筆者はお金に関する漢字を出して、それらの漢字に「貝」という字が含まれていることを示しています。つまり、筆者はお金と貝には深い関係があることを読者に示そうとしているのです。したがって答えはイです。ア・ウ・エはどれもお金と貝に関係があることに触れられていません。

問七 **B2** 理由 推論

——線⑥の直前に「こうして」とあるように、「金・銀・銅」が「お金として使われるようになった」た経緯が書かれています。それらの金属が使われるようになった理由は、①「まず金・銀・銅は：貴重品です」、②「さらに大切なことは：古代の技術力でも簡単に溶かすことができた：持ち運びのしやすい金貨：を作ることができた」と示されています。問題文には、「めったに手に入らないという理由の他に」とあるので、①

には触れず、②の内容を三十五字以上四十五字以内でまとめるということになります。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問八

1 **B1** 具体化 関係づけ

お金は自分が欲しいモノやサービスを得るための「交換手段」です。紙幣そのものはただの紙切れですからその自体に価値があるわけではありません。ただ、お金の、モノやサービスと「交換できる」という点から、みんなお金に「価値がある」と認識しているのです。このことから、お金は「使つてこそ価値が出る」といっているのです。

2 **B1** 理由 関係づけ

ただの紙切れが、モノやサービスと交換できるのはなぜでしょうか。ヒントは、——線⑦の直前の段落にあります。紙幣は昔「預かり証」でした。ただの紙切れである「預かり証」が「他の物と交換できる」のはその「預かり証」を発行したお金持ちの「信用を背景」にしているからと示されています。一万円札も同様です。それを発行した日本銀行の「信用」を背景に、皆が「一万円札という「紙切れ」をモノやサービスと交換できる「交換手段」として、使っているのです。

問九 **B1** 抽象化 比較

筆者は、具体例を出しながら、お金とはどういうものか、物々交換の時代からの歴史を紐解きながら説明しています。本文の話の展開と選択肢を見比べてみましょう。ア「問題提起の文から読者に主題をつかませ」とありますが、本文には主題を示す問題提起の文はありません。イ「日本独自に発達したお金の歴史」とありますが、本文では、お金の起源になったものを様々出すなかの一つとして、日本の稲や布を出しているだけです。ウ「筆者のお金への向き合い方」は本文では触れられていません。

問十 B1 関係つけ

もともと本文にあったとされる「ここから『サラリー』という言葉が生まれたわけです。」という文から考えます。この文の直前には、「サラリー」に関係した文があるはずですから、答えはウです。

3 A1 知識

かなづかいの問題です。かなづかいには基本的なルールがあるのですが、例外も多く、複雑なので、よく出るものについてはこちらを押さえておくことが肝要です。

お段の長音は「お」↓「う」で表現することが基本です。例えば、応援（×おおえん○おうえん）、東京（×とおきょう○とうきょう）、道路（×どおろ○どうろ）などがそれぞれです。例外もあります。「遠い（とおい）」、「大きい（おおきい）」、「氷（こおり）」、「多い（おおい）」、「おおかみ」 「十（とお）」 「通る（とおる）」がそうです。

「ぢ」↓「じ」「づ」↓「ず」で表現することが基本なの

ですが、例外も多くあります。

①二つの語を結び付けることによって生じた「ぢ」「づ」はそのまま書く。

鼻+血↓鼻血（はなち）

茶+筒↓茶筒（ちやつづ）

味噌+漬↓味噌漬（みそづけ）

②同じ音の連続で生じた「ぢ」「づ」はそのまま書く。

鼓（つづみ）・縮む（ちぢむ）・続く（つづく）

しかし、①の例外として世界十中（せかいじゅう）などもありますので、注意が必要です。

4 A1 関係つけ

漢字の音訓の問題です。二字熟語は、「音+音」、「訓+訓」で読むのが普通ですが、「音+訓」（重箱読み）、「訓+音」（湯桶読み）も少なくありません。

- ① 残高（ザンだか） ↓音+訓
- ② 下流（カリユウ） ↓音+音
- ③ 手間（てま） ↓訓+訓
- ④ 雨具（あまぐ） ↓訓+音
- ⑤ 世界（セカイ） ↓音+音